



梶谷 康介議員

新町長に期待を込めて！

(問題、課題山積する中で、重要、緊急を要する事項に対して取組む真意を問う)

町 長

みんなで知恵を出し合って、真剣に考える時期がきている！

町長 ①漁業経営は大変厳しい状況になっています。かつては30億もあった水揚げが今半分近くになってきている現実は、間違いなく事実であります。その中で漁業生産を伸ばすための手

梶谷 短期決戦で政策、真意を質す時間もない中熱意に打たれ、漠然ながら（よ）くわからないまま、町民は期待を抱き絶大な支持をし、今日の結果となったものと理解している。病院や学校の改築、松前城天守閣の老朽化等大きな課題の中、次の事項について質す。
 ①漁業再生は漁港の活用で”作り育てる漁業”とあるが②高齢化対策の中から特別養護老人施設は、小規模多機能型居宅介護の充実に取組むチャンス！
 ③実証実験終了を踏まえ今後の公共交通のあり方は財政支援（欠損補助）から交通政策投資へ！
 ④物産振興の拠点施設、道の駅 北前船松前”健全経営に先行き不安？大義は漁民漁協支援とあるが、将来は重荷、負担の可能性大、見直しは不可避と考えるが？

で介護サービスを受けることが出来るという地域密着型サービスは、市町村がサービス事業者の指定、指導監督を行う権限を持ち、原則その市町村の住民のみが利用出来るというものです。グループホームか小規模多

法をどうしたらいいのか、その部分を充分考えて行く必要があると思っています。いくら何でも漁業所得を上げる方策をみんなで知恵を出し合って、今すぐにも取り組めることはないのか。真剣に考える時期がきていると思いますので、漁協と連携をしながら、まず漁港内を利用して、所得を上げていく方法に力を注いでみたいと思っています。
 ②小規模多機能型居宅介護というのは、通所、訪問、宿泊を一体的に提供して365日24時間体制で切れ目の無い支援をすることで、自宅での生活継続を支援する内容のもので、家族、本人にとっては24時間の介護を受けられるというサービスになり、最高に良いものだと思います。ただ一方では、財政的な負担の部分もあります。住み慣れた地域の近くで介護サービスを受けることが出来るという地域密着型サービスは、市町村がサービス事業者の指定、指導監督を行う権限を持ち、原則その市町村の住民のみが利用出来るというものです。グループホームか小規模多

不安を抱えておりますので、

機能型居宅介護、あるいは定員が29人以下の小規模特別養護老人ホームの内、一つは整備したいと思っています。
 ③これからの松前町の現状を考えた場合に、来年の4月から小学校が統合になり当然スクールバスの委託予算が増え、更に27年には大島中学校の部分についても通学バスの委託料が増えてくるということでありますので、この現状を踏まえた中で、将来的にどういう公共交通の体系が良いのか、かなりハードルの高い政策判断になると思います。そのためにも松前町地域公共交通活性化協議会の意見を充分踏まえて、対応していきたいと思っています。
 ④例えば漁協の方で指定管理が出来ないということになると、3年の契約をしています。3年間の契約をしていますが、途中でそういう状況も無いとも限りませんので我々は、そうなる前に何か対策を講じるべきだと考えておりまして、3年間で、ある程度のものが見えてくるような気がしています。いずれにしても私共も不安を抱えておりますので、

まず漁協と道の駅の運営について改めて考え方を整理する必要があると思います。



道の駅 北前船松前



川内谷 進議員

石山町政は「町民の期待」にどう答えるか！

町 長

問題、課題が山積となっているが皆さんの力を借りながら町政運営を進めていく！

川内谷 国政の動きは「社会保障と税の一体改革」を

目指すと表明しているが、実際には消費税の増税策の実現にあり、野田政権の方針が、明確化しない現状での町政運営は、非常に困難性を伴うものと考えられる。町民が期待を持って見守る石山町政は、多くの町民にいかなるメッセージを伝えるのか。

①新町長として・執行者としての決意は
②産業振興策の水産業の育成は
③医療の充実・無料化の対策は
④松前町総合計画を見直す考えは

町長 ①町民の皆さんの生活を守るということは、大変大きな使命だと思っております。それを担うことの責

任の重大さを痛感しています。今、就任して2ヶ月が経ちますが、町政の中には問題、課題が山積してあります。職員や議会の皆さんのお力を借りながら、町民の期待に応えられるしつかりとした町政運営をしていきたいと思っています。

②まず作り育てる漁業の推進です。基幹産業である水産業が大変厳しい漁業経営を余儀なくされている現状を何とか打開出来ないのか、いくらかでも漁業所得を上げる方策は無いのか。真剣に考えることが必要であり、そのための手段として、漁港内の静穏域を有効に利用した蓄養殖は間違い無く漁業生産の向上に繋がると思っております。

また、漁港以外で行われている作り育てる漁業では、ウニの深淺移植、昆布の養殖、アワビの放流事業も現在行っています。特にウニの深淺移植につきましては、積極的に推進して行きたいと思えます。その背景は、現在アクアガス機とマイナス60℃の急速冷凍機を稼働して加工するウニの冷凍パックが大変好評であり、更に加工量を増大し支援して行きたいと思っています。

次に漁業高齢者対策では70歳以上になると、改めて投資的な事業は出来ないと思えますので、アワビやウニの養殖事業を主体に取り組めるような事業があれば、町として応援して行きたいと思えます。

漁業後継者の育成については、漁業に魅力が無ければ後継者は育ちません。その環境づくりが大事であり、後継しようとする人の自立心が原点です。漁協では事

業後継を志す人への支援として近代化資金融資を受け、実際の手続き、相談を受け、町では漁業を志望する方に、北海道漁業研修所への入所を推奨しており、補助要綱をもって助成しています。当面現状の支援体制は、足腰の強い漁業を目指した場合に新たにどんな支援が出来るのか、漁協の方とも協議してみたいと思えます。

③医療費の中学生までの無料化は、平成25年4月1日には実現させたいとの思いで、現在作業を進めています。函館医師会や渡島医師会、函館歯科医師会、函館薬剤師会のご理解がなければ出来ないもので、年内に事務的な整理をして12月の定例会に条例の改正案を提出したいと思っております。

④現在の松前町総合計画は、平成20年度から29年度の10

ヶ年を目標年度として「みんなで築こう協働のまち」をキャッチフレーズとして策定されたものです。ますます変化する時代の急

流に対応するため、前期5年、後期5年として毎年度状況の変化に合わせた見直しをしてきています。



ナマコ放流魚礁をつくる茂草実行組合の皆さん